

ウムチョ ムゥイーザ通信 No. 24

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

現地 NGO「ADESOC」報告

ウムチョムゥイーザ学園 チャールズ校長より



2009年7月25日現在の学費の納入状況の報告

単位：人 *時価換算による。単位：円

納入状況	幼稚園			小学校						合計	金額
	年少	年中	年長	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
100%	3	16	10	14	15	18	24	27	18	145	1,017,718
その他	1	4	1	7	5	5	8	11	6	48	176,492
0%	3	7	6	5	12	9	11	9	8	70	0
合 計	7	27	17	26	32	32	43	47	32	263	1,194,210
予算額											1,959,076
不足金額(日本からの支援額)											764,866

ウムチョムゥイーザ学園の会計報告 2学期(4月～7月)

〔収入〕

〔支出〕

円換算

項目	金額	項目	金額	項目	金額
学費	1,194,210	職員への給料	1,688,306	先生へ貸し出し	59,506
日本からの支援	785,530	設備維持経費	46,496	銀行への返済金	141,712
入学登録料	1,872	通信費	11,558	予備費	44,906
バス運行収入	0	消耗品	48,379	税金	167,132
水販売収入	4,316	車のガソリン代	0		
家畜収入(やぎ・うさぎ)	11,698	車の修理保険代	3,276		
1学期残高	109,176	管理運営会議費	41,327		
個人寄付	59,506	環境整備費	29,012		
他の NGO からの寄付	0	その他の経費	20,823		
1学期不足の学費収入	154,575	備品	0		
		小計	1,889,177	小計	413,256
合 計	2,320,883			合 計	2,302,433

残金 18,450

【感謝の言葉】

2009 年度終了に当たってウムチョムゥイーザ学園を支えてくださった皆様に感謝申し上げます。

そして、家族にとって大切な子ども達をウムチョムゥイーザ学園に託して下さった保護者の皆様に感謝いたします。

次に、国の方針として、教育指導言語がフランス語から英語に移ったにも拘わらず、当学園で一生懸命勉強し、努力した子ども達にも「ありがとう」と感謝します。

当学園の運営のために、経済的・技術的な支援を惜しまずに与えてくださった日本の皆様の寛大なご協力に感謝いたします。それらの支援によって、貧しくて授業料を払うことが出来ない子ども達の教育にも尽くすことが出来ました。

またルワンダの教育を考える会の支援によって、昨年11月から実施された教員のための英語研修と2009年度の教材費用も賄えて今年度のカリキュラムを実施することが出来ました。



さらに、JICAから派遣された幼稚園教員のすばらしい指導を受けることが出来ました。JICAにはベテランの先生方を派遣して下さったことに感謝します。

そして、ワールドビジョン/ルワンダ支部が開催したエイズ撲滅教育大会の発表では、当学園の子ども達が自分達の思いを劇で表現し、それが高く評価され、良い成績を収める事が出来ました。そして沢山のボールやスポーツウェア・カバンを頂き、子ども達が自信を持つ機会にもなり感謝します。

【2009年の課題】

2009年には大きな困難にはぶつかりませんでしたが、教育言語がフランス語から英語に移行することによって、保護者側から当学園の英語での教育に懸念を持たれ、その結果、学生数が減り今年はその事を克服する努力をしてきました。

【将来の夢】

幼稚園教育が教育の原点であることを、JICAの指導によって感じました。これからは幼稚園教育に力を注ぎたいと思いました。そのためにはJICAに日本から園長先生の派遣要請を目標とします。麻子さんが浸透させた幼稚園教育の継続が可能になると思います。それによって、当学園が持っている国際交流の実りをキガリ市民に伝えられるでしょう。そのためにももっと幼稚園の運営を充実しなければなりません。

また、もう一つの夢、それは中学校の開校です。それによって、困っている元ウムチョムイーザ学園卒業の中学生を引き受けることが出来ます。新しく卒業する子ども達は小中学校9年間の教育のプログラムに沿って学ぶことが出来ます。

現地「ADESOC」ではさらに技術高等学校をめざしています。この技術教育には予算費用がたくさんかかります。そのために、支援してくれる新たな協力者を募っています。

ルワンダ政府は、ルワンダの将来をはっきりと考えています。それは、ルワンダが尊敬される国になることを目指しています。それを、果たすためには私達には大きな責任があって住民がそれを果たさなければならないから、私達は一生懸命働かなければならないし、教育の分野で協力し合って力をあわせてより良い方向へ変わらなければならないと感じます。

これからは、あらゆる分野にコンピュータが欠かせなくなりつつあります。設備充実のために、学校にある車を修理しながら活用して自立につなげるためのさまざまな事業を展開します。

【一緒に喜びましょう!!】

学園は音楽の授業に現代楽器を使っている全国唯一の学校です。特に幼稚園の子ども達が楽器を使って演奏するのは当学園しかありません。

想像してみましょう！

私達の後に将来すばらしい未来が待っていることを！

よちよち歩きから、将来国を代表するような演奏家が出現したらと考えるだけでワクワクしてきます。このワクワクが皆さんと共に感じられたら幸いです。



私の元気の源～笑顔はじける子どもたち～

JICA ルワンダ派遣青年海外協力隊 幼児教育 加藤麻子

はじめまして

2008年9月から淵田さんの後任として、ウムチョムイーザ幼稚園で活動している加藤麻子です。

この1年、言葉の壁、文化の違い、そしてなにより保育観・教育観の違い、また自分の無力さに、戸惑ったり悩んだり落ち込んだり・・・いろんなことがありました。

そんな私をいつも救ってくれるのが、この子ども達の笑顔です。この笑顔を見て、子ども達に触れているだけで、心が軽やかになり元気が出てきます。

ルワンダの幼児教育事情は、日本とはだいぶ異なります。まだまだ幼児教育が普及していないルワンダ。小学校の授業のような勉強が主体の保育が展開されています。

少しずつ、子どもを主体とした保育・遊びの中から学ぶ・子どもの発達に応じた活動を伝えていけたら。。。と奮闘中です。



いつも瞳をキラキラさせて好奇心旺盛な子ども達。

日本の歌も手遊びも大喜びですすぐに覚えてしまいます。折り紙も大好き！

皆さんから支援していただいたクレヨンや絵の具を使って、大好きなお絵かきもののびと楽しんでいます。

先日、JICAの「世界の笑顔のために」というプログラムで、私が以前勤めていた神奈川の幼稚園から、絵本を30冊寄贈していただきました。ルワンダには、絵本(だけでなく

本も)とても高価で身近な存在ではありません。そのため、子ども達が物語に親しむ機会もとても少ないのが現状です。でも、子ども達はお話大好きです。テレビも日本のように各家庭に普及しているわけではないので、絵や写真を見て未知の世界を想像する良いきっかけにもなります。

毎朝、幼稚園に来て、お友達と一緒に絵本を眺めています。たくさんの絵本に触れることで、お絵かきの幅も広がりました。想像力も、集中力も、お話を聞く力も、ぐんぐんと伸びていくことでしょう！

1年間、子ども達と過ごしてきて、私から伝える一方ではありません。学ばせてもらうこともたくさん！なによりも**きれいな心！爆発しそうな好奇心！生きる力！そして、リズム感！！**

先生が叩く太鼓の音にあわせて、リズムカルに踊る子ども達。「アフリカにいるんだなあ」と感じる瞬間です。

ルワンダと日本の文化・保育の融合！

これからも、お互いの文化を尊重しながら、刺激しあい高めあっていけたらいいなと思っています。



ルワンダ訪問記

平成21年8月

福島大学2年 島脇 麻実

ルワンダは私の初めての海外だった。行く前は、アフリカは危ないと聞いていたため、もしかしたら死ぬかもしれないと考えていたこともあった。しかし、ルワンダに着いてみると、想像していた国よりも治安がよく、ルワンダ人はいい人だと感じた。外を歩いているとみんなから挨拶をされた。日本では、知らない人に話し掛けてはいけなくて教わり、全く知らない人とは話さない。みんなに挨拶を返すのは危険な行為だとルイズさんから注意をされたが、笑顔で挨拶されると嬉しくなりどうしても返したくなる。また、行きたい場所があるが行く方法や道が分からないときも、私たちが訪ねたルワンダ人は最後まで遠くから見ていてくれ、間違った方向に行くと手を振って違ふと教えてくれた。本当に優しい人が多いと感じた。だが、フィデスコと言う元ストリートチルドレンのための支援施設を見学させてもらったとき、施設の男性の方が満面の笑みで挨拶をしてくれ、さらにずっと笑顔で話し掛けてくれたのすごくいい人なのだなと思ったのだが、後でジャイカの方から聞いた話によると、この人は以前ユニセフからの支援金を内緒で自分のお金にしていたというのを聞いた。信じられずすごく怖くなった。そのため、どこまで人を信じて良いのか分からなくなることが何度かあった。外国人はお金を持っていると思われているだけに本当に信頼できる人を見つけることが難しいと感じた。



私は、去年ルワンダで起きた悲劇を知ったばかりだ。自分が生きている時代にこの内戦について知らずに日本で生活していたことにショックを受けた。私は父を7歳の頃に亡くしており、貧しい生活をしてきた。ルワンダに行く前は自分がしたいことの一つとして、内戦で親を亡くした子ども達と、私も遺児の一人として何か共感でき、相手の気持ちを少しでも楽にさせてあげられないかと考えていた。だが、実際にはこの2週間では短すぎた。内戦の話題に簡単に触れることができない。正直、メモリアルに行きたいと言うことも本当に言いにくかった。気になって、聞きたい、知りたいと思っても、同時に、内戦の辛い思い出を思い出させることが申し訳なかった。レストランなどで日本人の方と話す機会が何度かあり、その中でやはり内戦のことがでるのだが、【メモリアル】と【ジェノサイド】という言葉はルワンダ人も知っている言葉だったので、必至に日本語に訳して話した。この



外国人たちは内戦のことを話しているのだと生き残った方たちに気づかれなくなかった。内戦はルワンダ人みんなの心の傷であるため、時間をかけて信頼関係ができた上でなければ話しを聞くのは本当に難しく簡単に解決できない問題だと実感させられた。ルワンダで自分にできることが全く分からなかった。今の自分ができることは日本で多くの人にルワンダで起きたことを伝えていくことだけのような気がした。

ルイズさんから、ルワンダは安全で、みんなオシャレだと聞いていた。想像と実際に見るのでは本当に違うのだと感じた。首都の街を歩いている女性は華やかな衣装で、黒い肌にとっても似合っており羨ましく思った。アフリカだから、ジーパンに半そでで大丈夫、と思っていたが、キガリの街をその格好で歩くのが恥ずかしく思うほど本当にオシャレだった。

NPO法人 ルワンダの教育を考える会 PRESENTS!! ルワンダ DAY in ふくしま

JAZZピアノコンサート

日 時 2009年7月25日(土) 開演14:00
場 所 三春町交流館『まほら』小ホール(三春町)

日 時 2009年7月26日(日) 開演14:00
場 所 福島県文化センター小ホール(福島市)



河野康弘さんの優しいトークと親しみのあるJAZZピアノのメロディが、三春や福島の地に元気と思いやりを届けてくれました。

また、当日はたくさんのスタッフが活躍してくれました。お互い忙しい日常をかかえてる中で、ほとんど打ち合わせもなかったのですが、会場設営・展示物担当・販売担当・当日券売り場担当・駐車場係り等・・・チームワークで乗り切ることが出来ました。これからも、よろしくお願いいたします。

♪ アンケート結果 ♪

第1部 マリールイズの講演の感想

- ・ 厳しい日々を生き抜かれ、今に感謝して子ども達を想い活動しておられる姿に感動です。
- ・ 大変な経験から発せられる言葉は大変重く心に響きます。これからも身体を大切にご活躍を応援しています。

第2部 JAZZ ピアノコンサートの感想

- ・ 生き生きした自由な演奏と心のこもったお話が良かったです。
- ・ ピアノから平和をつなげていくすばらしさを感じた。
- ・ 心と心のつながりを感じた、温かいコンサートでした。
- ・ ピアノと一緒に歌えたこと、平和(9条)とか自然環境とか大切な活動をされている方がいることを知りました。ありがとうございました。
- ・ ピアノの演奏すごかった。
- ・ 話の後に音楽もよかった。
- ・ 河野さん最高のピアノありがとう！最後の曲感動しました！！
- ・ 人の命の大切さ、そして、ピアノの大切さが音から伝わってくる感じがしました。
- ・ 平和の心がいっぱいこめられたトークもすばらしかったです。笑顔と音楽はまさに世界共通語ですね。
- ・ ルワンダに音楽が愛されるように。

今後のルワンダの教育を考える会について、アドバイスがありましたらお聞かせ下さい

- ・ 何らかの形で平和ボケした日本人としてお手伝いしたいと改めて感じて帰ります。ルイズさんのたった一人の考え呼びかけでこんなに大きな事を成し遂げられること。あんなにたくさんの子ども達に夢を与えられるすごさ、いつも感じていましたが、今日で3回目ですが、改めて感じ入ります。私も小さな器の中で生きています。今出来ることを一生懸命やっていこうと今日のスタッフさん達も含め、河野さんのトークも考えさせられながら、私も何かと考えてしまいました。少しずつでもきれいな地球を子孫に残せるようやっていきたい。ありがとうございました。
- ・ 長〜くステキな活動を！
- ・ スタッフのみなさんご苦労様でした。ガンバレ。ガンバレ、ガンバレ！



ルワンダの子どもたちへ ルワンダフルクリスマスキャンペーン

ルワンダフルクリスマスキャンペーン期間:

12月1日~12月31日

ルワンダの子どもたちへの募金箱を設置していただける場所を募集します!!

箱は思い思いの箱を利用していただき、身近なところでの募金活動をお願いします。

連絡をいただければ設置場所への依頼文を送らせていただきます。

☆掲示板☆

インターネット募金も受付けております。ホームページをご覧ください。

☆各種振替口座番号のご案内です!☆

会費振込・寄付・募金…毎月の授業料を払えない子ども達のために、継続した寄付をお願いします。

郵便振替口座：02290-0-97126

加入者名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会



ソーラー発電…ソーラー発電機で、電力の確保をしたいと考えています。

郵便振替口座：02200-2-77634

加入者名：ルワンダ ソーラー発電P



事務局では、今回会費の納入状況をお知らせしますのでご確認をお願いします。また、事務局スタッフ及び各種イベント開催時、お手伝いくださる方を随時募集しています。(イベント開催時の半日でもOKです。)

〔編集後記〕

コンサートに集まってくれたスタッフ達が、早くも来年のコンサートに向けて準備を始めています。

ルワンダで家族を虐殺された音楽家が怒りを乗り越えて平和のメッセージを伝えに、来日いたします。きっと彼の精神力や優しさで私たちに前向きに生きることを教えてくれることでしょう。各地でのご協力をお願いします。



ルワンダの教育を考える会

理事長 高橋 啓子

副理事長 カバンガ・マリルズ

〒960-8055

福島県福島市野田町四丁目8-20

TEL / FAX: 024-533-8289

ホームページ: <http://www.rwanda-npo.org>

e-mail: info@rwanda-npo.org

イルワンダ DAY in "かぼちゃ小屋"

昨年に引き続き第2回目。

今年も河野さんのステキなピアノを聴けます。

Pianista

河野康弘



1953年生 奈良県出身。

矢沢永吉バンド、中村雅俊のバンドを経て独立。スタンダードから童謡まで、ジャンルを超えた音楽を楽しませてくれるピアニストです。

クリスマス Jazz Piano インサート

2009年12月20日(日) 6:30~

第1部 6:30~7:30

マリー・イルイズ・イルワンダの今を語る

+ 前座演奏

(今回も大河原が、アロを前に耳にかけ、もなく、2~3曲、ピアノと歌をやらせていただきます。)

第2部 7:30~8:30

Jazz Piano

会場

"かぼちゃ小屋"

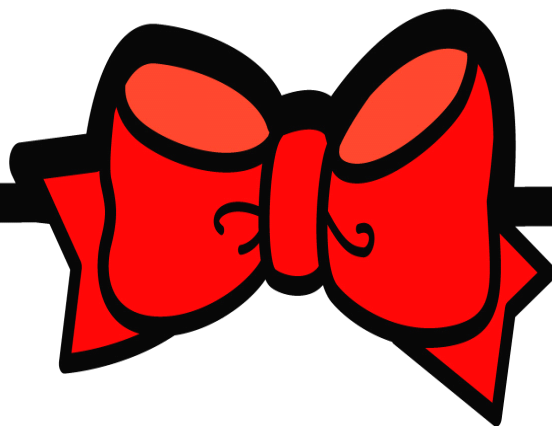


イルワンダは赤道の南と南緯の2倍くらいいたる小さな国です。

入場無料

アフリカのイルワンダ。カガリ市にあるウツリイザ学園建設のキャンペーン。どうぞおかけします!!

連絡先 (大河原 伸)
TEL・FAX 0247-85-3022.



ルワンダフルコンサート開催のお願い

今回ルワンダ内戦を体験した歌手と舞踊家を日本に招き、アフリカ民族音楽を楽しみながら、国際交流・国際協力に対する理解と平和と教育の大切さを学ぶ機会になると願います。ルワンダフルコンサート2010を企画しました。

そこで、趣旨をご理解いただき、2010年7月4日から7月15日までの間でご都合の良い日に、コンサートを主催していただける団体様を募集しております。

Samputu & Ingeli



【出演者の紹介】

Jean-Paul Samputu は、1962年3月15日生まれ、ルワンダ出身のシンガーソングライターです。彼はルワンダ内戦で幼なじみに家族を殺されるという悲劇を「ゆるすこと」で乗り越え、その体験から学んだことを音楽活動を通して世界に発信しています。

2003年にコウラ賞(アフリカのグラミー賞と言われる)を受賞し、ルワンダのために文化大使として世界中で公演を行っています。

伝統的なルワンダ音楽とダンスからゴスペル等幅広いスタイルで歌います。

また、会場と一緒にアフリカのリズムをワークショップの形で楽しませてくれます。

通訳を、同じ想いを共有する本会副理事長(マリールイズ)が行うことによって、アフリカ異文化にふれ、国際交流と国際協力に対する理解が深まることと思います。

詳しい内容は、事務局までお問い合わせください。

